

Youth Manna

マルコ1:35
さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2023/4/17(月)

創世記29:1-14

ヤコブは、結婚相手を見つけるための旅を続け、東の人々の国へ行った(1)。

①ヤコブは、甥ラバンの娘ラケルが来ることが分ると、井戸の傍らの羊の群れを離散させようとした(2-7)。→ヤコブにとって、自分の願い>文化、しきたりだった。

②ラケルが群れと共に井戸にやってくると、ヤコブは勝手に石をどけて彼女の群れに水をやり、ラケルに口づけし、声を上げて泣いた(9-11)。→ヤコブには、他者を顧みない部分、周りが見えなくなってしまうところがある。

このようにヤコブには弱さがあったけれども、旅路を導いてくださって主は彼に結婚相手としてラケルを与えてくださったことがわかる。

★今日たとえ失敗しても、何で自分はいつもこうなんだろう?と思えることがあっても、勉強や部活で上手くいかなかったも、神様は君を赦し、導いているよ!

2023/4/18(火)

創世記29:15-35

ヤコブはこれまで家族をだまして祝福を手に入れてきたけれど、ここで反対にだまされることを経験する。ヤコブはこの試練をラケルへの愛によって乗り越えようとしたけれど、二人の妻を同じように愛することは出来ず、関係に歪みを生じさせてしまった。人の愛にはどのような限界があるだろうか。考えてみよう。

●神様はレアが嫌われているのを見て、どのように介入されただろうか。

●人の愛は原動力になるけれど、完全ではない。隣人を愛するときに、どうしても神様の愛が必要なことを認めよう。今日、隣人を愛することができるように神様の愛を求めて祈ろう!

2023/4/19(水)

創世記30:1-24

キリスト者が祈る時、自分の願いが実現することを求めて祈るだろう。同時に私たちは、主のみこころがなるようにとも祈る。これらは矛盾しているようにも思えるが、主権を持つお方が私たちの願いを聞き、その上でみこころをなしてくださると信じて、祈るのである。この箇所でも、人間の願いを聞いてくださる主の恵が記されている。

子を産んでいないラケルは姉に嫉妬し、女奴隷をヤコブに与えることで子を得た。神は、自己中心的なところのあるラケルの願いに応えられたのである。また、夫に愛されていないレアは、自分が子を産まなくなっていたことを嘆き、神はその願いを聞いて子を与えてくださった。

神は、二人の願いを聞き入れ、恵みを与えてくださった。私たちの願いも主は聞いてくださる。主が与えてくださる恵に感謝することができるよう祈ろう!

2023/4/20(木)

創世記30:25-43

神様はヤコブを大いに祝福している。祝福と聞くと全てが順調に進むことだと思えることはないだろうか?ヤコブの妻たちとの苦労や義理の父ラバンの関係を見ると、大変な中にも神様が共におられることが祝福だとわかる。

ラバンは、ヤコブが報酬として求めたことを了承した上で、その管理をラバンの息子たちに任せたりとひどい仕打ちをした。ヤコブが神様から祝福されているからこそ大きく成功したと分かっているのに、ヤコブを騙し利用しようとした。

結果的に弱い群れはラバンのものとなり、強いものはヤコブの群れとなった。これはヤコブが行った枝の行為に力があるのではなく、神様の祝福ゆえである。神様の祝福を得て、生きる生活をしよう!!

2023/4/21(金)

創世記31:1-21

ヤコブは祝福され、大いに富んだ(30:43)。そのためラバンの息子たちはヤコブを妬み、ラバンの態度も変わってしまった。悩むヤコブに対して神様は語りかけ、導きと確信を与えたよ。神様はヤコブに「わたしは、あなたとともにいる」と語り、ヤコブも「神は私とともにおられる」と確信を得てラケルとレアに語る。

悩みや困難の中に置かれた時、神様がともにおられることを知ることは、どれほど私たちを力付けるだろうか。イエス様が天に上げられる時にも「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます」と弟子たちに語られたね(マタイ28:20)。今日家を出ていく時に、イエス様がともにおられることを心に刻もう!

2023/4/22(土)

創世記31:22-35

今日の箇所では、ラバンのところから逃げたヤコブの話が中心になっているね。事情があったにせよ、ヤコブが勝手にラバンの元から逃げたり、ラケルが盗んだものを隠したり…何が正しいのか悩んでしまうような箇所だ。ただ、神様はそんな状況にあっても、私たち一人一人の人間関係の間にも働かれ、主は栄光を表すことができるんだね。

主の助けや介入を感謝して祈ろう!

2023/4/23(日)

創世記31:36-55

テラフィムを捜して見つけれなかったラバンに対し、ヤコブは二十年間溜めていた思いをぶつける。怒りをぶつける中で、ヤコブは神様が変わらず自分についてくださったという恵みに気づく(42)。ラバンも顧みる神様の臨在を知らされていた。だから、これ以上争うことをせず、むしろヤコブと契約を結ぼうと言う。ヤコブも申し出を受け入れた。

私たちの平和も、キリストによる新しい契約があるからだ(コロサイ3:15)。この愛とあわれみに満ちたお方を人間関係の中心に置くとき、イエスによって罪赦された者として、キリストにある平和が保たれるのである。

キリストが私たちを顧み、臨在し、私たちの関係の中心におられることを覚えよう。